

滋賀県における今後の環境学習のあり方について 検討まとめのイメージ

はじめに

なぜ今検討する必要があるのか

琵琶湖との
共生

琵琶湖をはじめとする滋賀の豊かな自然環境を孫子の世代にまで引き継いでいく使命がある。

目指す社会の
イメージ

滋賀の環境と生態系が健全に保たれ、環境への負荷の少ない健全な経済の発展を図りながら、県民すべての生活の質の向上が図られている「豊か」で「安全・安心」な「持続可能」社会。

環境学習の
あり方検討の
意義

環境教育等促進法の施行、県内外の社会状況の変化を踏まえて、滋賀県における今後の環境学習のあり方について検討する必要がある。

環境学習のめざすもの

全体を貫くキーコンセプトは何か

< 目標 >

持続可能社会
づくりに向け
て主体的に行
動「実践」

琵琶湖を守ろうと立ち上がった県民運動の原点に立ち返り、持続可能社会づくりのために解決すべき環境課題を自分ごととして捉え、普段の消費行動など身近なことから持続可能な社会を意識した行動が重要。

「つながり」
を意識し、深
める

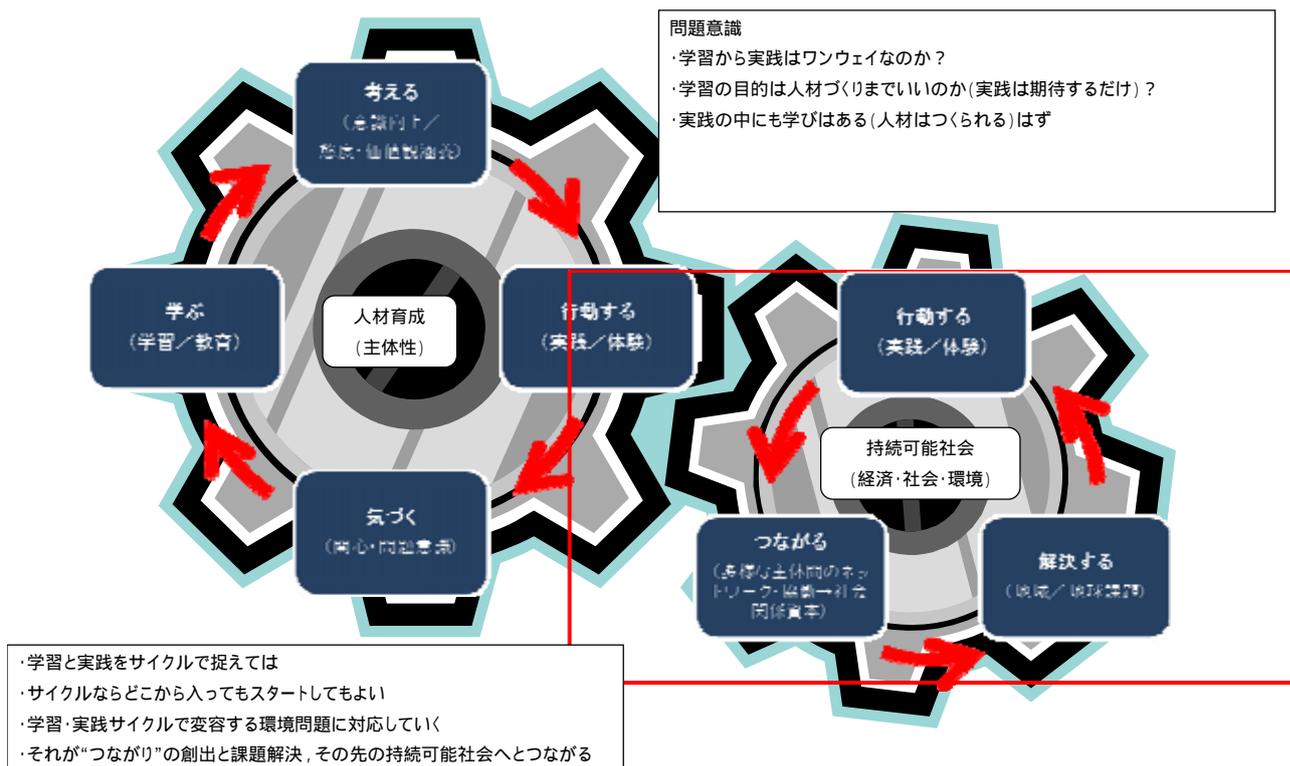
私たちが自然の生態系の中で生きていることを理解し、人と人との絆や、人と自然、人と社会とのつながりを深めていく必要がある。持続可能な社会づくりに向けた行動により、様々なつながりを理解し、深めることで、そのつながりが学びにつながっていく。



持続可能な社会づくりのための環境学習

ESD の枠組みの中で環境学習を捉え直した考え方で、学びに「実践」と「つながり」の視点を意識するもの。

「持続可能な社会づくりのための環境学習」のイメージ

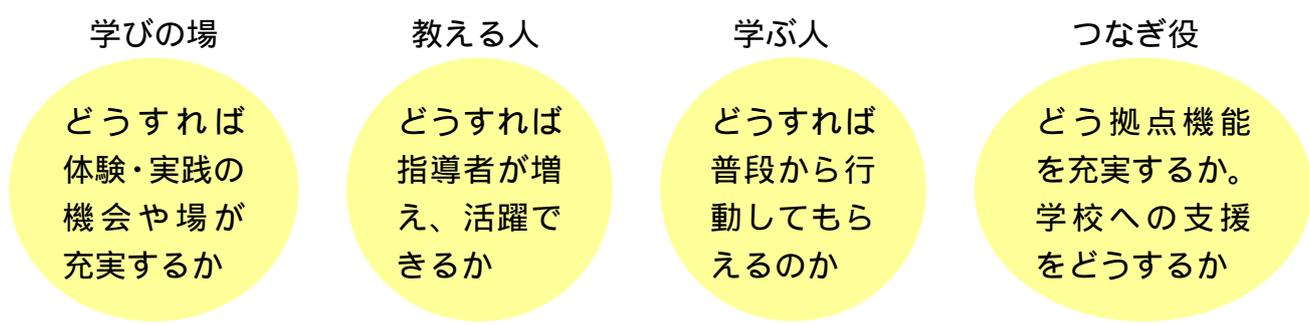


環境学習で何が大切か

環境学習を進めるにあたり何が大切か

基本的な考え方 (理念)	つながり	実践の視点
体系的、総合的に 行われること	学び・ 世代を つなぐ	幼児教育 学校教育 社会教育 環境学習 地域での実践 地域課題を体験 学びに実感 人と人とのつながり 実践
身近なところで 行われること	場を つなぐ	衣、食、住など生活等身近な場で実践 学び ライフスタイルの変革 消費行動 地球規模のつながりを意識 ライフスタイルの変革
協働が重視されて 行われること	主体を つなぐ	交流 課題の共有 協働 つながりの深化 地域で定着 各主体のつながり 環境人材を生かす場や機会の広がり

環境学習を推進するために (具体的事項)



各主体の役割

具体的に誰がどうすればよいか、どう連携しあうのか

